

牧場での体験が、親子の食や食生活に及ぼす
教育的効果の検証

学習院女子大学国際文化交流学部

日本文化学科・環境教育センター

教授 品川 明

2013年3月

社団法人 中央酪農会議

酪農教育ファーム推進委員会

[要約]

1. 調査の目的

牧場体験や酪農家とのコミュニケーションを通し、いのちのあたたかさや食の成り立ちなどを学ぶことにより、親子がいのちや食にかかわる価値意識の発展や成長がもたらされるかを検証する。また、親子での2日間の牧場体験から、食といのちの大切さや食の成り立ちを理解するためのプログラムの有効性とファシリテーションの効果についても検証する。

2. 調査方法

(1)調査を実施する牧場

東京都八王子市 磯沼ミルクファーム 代表 磯沼正徳氏

(2)調査対象

親子5組 親7名 子ども8名 合計 親子15名

(3)牧場での体験

1日目：13時～21時

事前アンケート調査、牧場散策、キャンプ準備、夕食やその準備など

2日目：6時～15時

朝食やその準備、チーズ作り、子牛との触れ合い、事後アンケートなど

(3)アンケートの調査目的と種類

下記のアンケートを牧場体験の前と後で実施し、その間のアンケートの記載内容の変化を捉えることにより、親と子どもの牧場や牛乳、乳牛に関するイメージや「いただきます」の価値観の変化を明らかにすることを目的とした。

- ① 事前アンケート（子ども用）添付資料1
- ② 事前アンケート（保護者用）添付資料2
- ③ 事後アンケート（子ども用）添付資料3
- ④ 事後アンケート（保護者用）添付資料4

3. 調査結果および考察

(1)事前調査の結果と考察

① 子どもの調査結果と考察

[食べ物への感謝やいただきますについて]

参加した子どもは食や食事に感謝の気持ちを有していた。また、いただきますの意味については、食べ物への感謝を挙げており、いのちをもらおうと答えた子どもが1名いた。

[牛乳と乳牛について]

ほとんどの子どもが牛乳を好きと答えていた。また、牛乳や乳牛については、知らないことが多い事がわかった。

[食生活について]

子ども達は食事を3回以上とり、食事時間も約30分かけている。家族と一緒に食事する子どもと子どもだけで食事をするに分かれた。いただきますやごちそうさまをいう子どもは家族全員で食卓を囲んでいる点が注目された。

[感覚と味覚について]

食べる時、鼻や耳を使っているという意識が少ないことがわかった。また、基本味では甘味、塩味、苦味、うま味の認識が高く、一方、酸味の認識が低い結果であった。

[給食について]

給食を大好きと好きと答えていた。

② 保護者の調査結果と考察

[食べ物への感謝やいただきますについて]

ほとんどの親が感謝していると答えていた。その理由として、食べられる事への感謝、食材に対しての感謝を挙げていた。また、いただきますの意味については、多くの親がいのちをいただいていると答えた。

[牛乳や乳牛について]

子ども同様、知らない事が多い事がわかった。

[食生活について]

食事の意義では、空腹を満たすや栄養と健康が多く、楽しみや生活の彩りやコミュニケーションと答えた親は少なかった。また、食事への配慮では、安全性、栄養バランス、無駄にしない、旬の食材、おいしさを挙げていた。食事の時に気をつけていることは姿勢、残さないこと、作った人への感謝を挙げ、食事の際に気をつけることは栄養や味より、姿勢、挨拶、マナーの面に配慮している。

食事時間は30分程度であるが、一人で食べると短時間になるという親がいた。

[感覚・味覚について]

食べる時、聴覚や触覚を使っているという意識が少ないことがわかった。また、基本味の認識は塩味、甘味、酸味の認識が高く、苦味やうま味の認識が低く、子どもと異なる結果になった。

[給食について]

子どもに比べ、良くない印象を持つ親がいた。

(2)体験活動 主な活動

- 1日目：①事前アンケートと心の色塗り、②放牧地の子牛や牛舎の母牛に挨拶、③コア殻や干し草の匂い体験、④キャンプ準備、⑤夕食準備と夕食
- 2日目：①手作りバター、②朝食準備と朝食、③モッツァレラチーズ作り、④子牛との散歩、⑤搾乳体験、⑥昼食準備と昼食、⑦体験後アンケートと心の色塗り

(3)事後調査の結果と考察

① 子どもの事前事後調査の結果と考察

[食べ物への感謝といただきますについて]

大変感謝しているが増え、牧場体験により食物に対して感謝の気持ちが向上した。いただきますの理解では、体験後いのちをいただくと答えた子どもが増え、牧場体験によりいのちと食を結びつけることが示唆された。

[牛乳や乳牛について]

体験を通じて、乳牛や雄牛が肉になる事実を認識した子どもが増えた。家畜としての役割やいのちの問題を追求する場として牧場は有効であると判断した。

[牧場体験について]

多くの子どもが楽しいと感じていた。特に、牛との触れ合いが楽しく、子牛との散歩や搾乳体験を挙げていた。また、ほとんどの子どもが再度参加したいと答えていた。

② 保護者の事前事後調査の結果と考察

[食べ物への感謝といただきますについて]

体験後、食べ物へ大変感謝している親が増え、牧場体験から食に対する感謝の念が上昇した。いただきますの理解では、牧場体験によりいただきますの意味を再認識した。

[乳牛について]

乳牛が肉になることを事前に知らなかった親は体験の事後でも理解していないことがわかった。

[牧場体験について]

牧場体験によって多くの概念を入手する事ができた。特に、子ども達より体験の効果を実感した。また、牧場体験の必要性を深く認識した。面白かった体験活動も牛との触れ合いと子ども同様の結果であった。

4. 総括

酪農体験を通じて、「いただきます」の意味を十分に理解した家族もいたが、必ずしも理解し切れない家族もいた。ファシリテーションやプログラムを再構築する必要がある。牧場での実体験が、「いただきます」の深い理解に繋がると判断された。

牧場での体験が、親子の食や食生活に及ぼす 教育的効果の検証

学習院女子大学国際文化交流学部
日本文化学科・環境教育センター教授
品川 明

キーワード 牧場体験、いただきます、いのち、コミュニケーション、ファシリテーション

1. 調査の目的

牧場体験における乳牛とのふれあいや酪農家とのコミュニケーションを通し、いのちのあたたかさや食の成り立ち（生乳が生産され消費者の元に届くまでの過程）などを学ぶことにより、親子のいのちや食にかかわる価値意識の発展や成長が、家庭内における行動や態度の変化に及ぼす効果について検証する。

親子での2日間の牧場体験から、食といのちの大切さや食の成り立ちを理解するために、どのようなプログラムが有効か。また、どのようなファシリテーションが有効かを検証する。

2. 調査方法

(1)調査を実施する牧場

東京都八王子市小比企町 1625 磯沼ミルクファーム 代表 磯沼 正徳氏

本調査の実施牧場は、乳牛の一生につき合うことの大変さと喜びと楽しみとともに、牧畜の歴史と文化を追体験することができる牧場である。そこは、いのちを生かす共有空間、食育、牧場体験そして生涯教育のフィールドでもある。牛との出会いからその奥に広がる牧畜文化、ミルクの食文化への理解を深め、身近に家畜のいのちを感じながら牛の一生を実感する。牧場を生涯教育の学習の場として、酪農体験学習を通じて、豊かな酪農の未来を考えることを実践している現場である。

(2)調査対象

親子5組 親7名 子ども8名 合計 親子15名

牧場体験に参加した親子5組

子ども 年 齢：5歳から11歳

男女比：男子5名 女子3名

3組(6名)が兄弟で参加した

親 年 齢：38歳から51歳

男女比：父親3名 母親4名

2組(4名)が両親で参加した

(3)牧場での体験内容

1日目：13時～21時

- ① オープニングガイダンスと自己紹介
- ② 体験前のアンケートと心の色塗り
- ③ 磯沼さんの牧場ガイドツアー
- ④ キャンプ準備
- ⑤ 牧場周辺の散策
- ⑥ 夕食準備
- ⑦ 夕食
- ⑧ 就寝

2日目：6時～15時

- ① 起床
- ② 朝食準備と朝食
- ③ モッツァレラチーズ作り
- ④ 子牛との触れ合い
- ⑤ 搾乳体験
- ⑥ モッツァレラチーズの成形
- ⑦ ランチ
- ⑧ 体験後のアンケート、心の色塗り
- ⑨ クロージング、終わりの挨拶

(4)アンケートの調査目的と種類

下記のアンケートを牧場体験の前と後で実施し、その間のアンケートの記載内容の変化を捉えることにより、親と子どもの牧場や牛乳、乳牛に関するイメージや「いただきます」の価値観の変化を明らかにすることを目的とした。

① 事前アンケート（子ども用）添付資料1

牧場体験前に実施した子ども用のアンケートである。食事への感謝の気持ちや「いただきます」や「ごちそうさま」の意味の把握、牛乳や乳牛についての既知な情報の確認、食生活の実態、食事の際に使用している感覚や味覚の把握および給食の好き嫌いを調査した。

[設問内容]

- Q1 食事や食物に対する感謝の気持ち（選択肢）
- Q2と3 「いただきます」の意味など
- Q4と5 「ごちそうさま」の意味など
- Q6～19 牛乳や乳牛についての既知内容
- Q20～23 食生活の実態調査
- Q24～27 食事の際の感覚と味覚調査
- Q28と29 給食について

② 事前アンケート（保護者用）添付資料2

牧場体験前に実施した保護者用のアンケートである。①の内容以外に、家族構成や食生活の実態をより詳細に調査した。

- 基本調査 年齢、生まれた場所、そこで暮らした年数、家族構成
- Q1と2 食事や食物に対する感謝の気持ち（選択肢）
- Q3～5 「いただきます」の意味など
- Q6～8 「ごちそうさま」の意味など
- Q9～19 牛乳や乳牛についての既知内容
- Q20～29 食生活の実態調査
- Q30～32 食事の際の感覚と味覚調査
- Q33～37 給食について

③ 事後アンケート（子ども用）添付資料3

牧場体験後に実施した子ども用のアンケートである。食事への感謝の気持ちや「いただきます」や「ごちそうさま」の価値観の変化、牛乳や乳牛の既知情報の変化、牧場体験の感想を調査した。

- Q1 食事や食物に対する感謝の気持ち（選択肢）
- Q2と3 「いただきます」の意味など
- Q4と5 「ごちそうさま」の意味など
- Q6～17 牛乳や乳牛についての既知内容
- Q18～22 牧場体験調査

④ 事後アンケート（保護者用）添付資料 4

牧場体験後に実施した保護者用のアンケートである。③とほぼ同様である。

基本調査 年齢、生まれた場所、そこで暮らした年数、家族構成

Q 1 と 2 食事や食物に対する感謝の気持ち（選択肢）

Q 3 ～ 5 「いただきます」の意味など

Q 6 ～ 8 「ごちそうさま」の意味など

Q 9 ～ 19 牛乳や乳牛についての既知内容

Q20～25 牧場体験調査

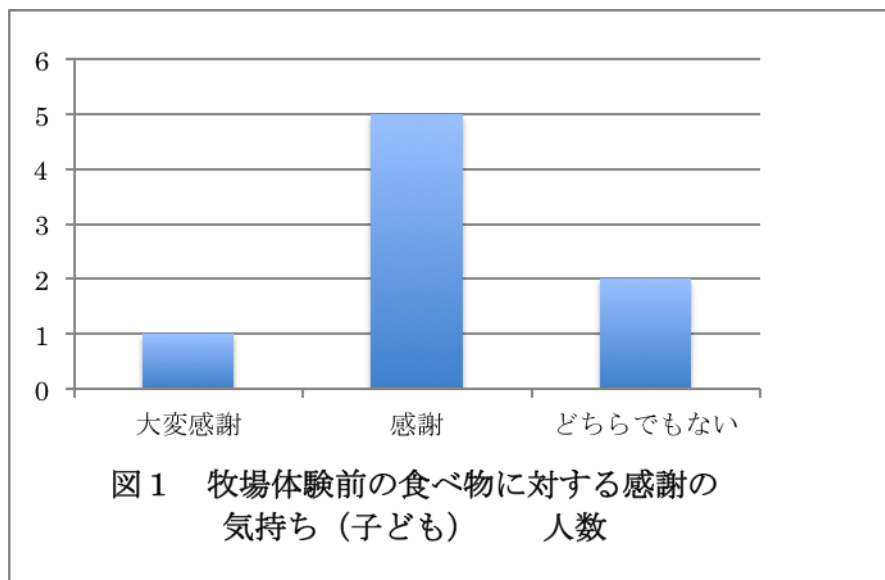
3. 調査結果および考察

(1)事前調査の結果および考察

① 子どもの調査結果および考察

[食べ物への感謝といただきますについて]

Q 1 食べ物への感謝について、



牧場体験を実施する前に、参加した子ども達に食事や食物に対して、感謝の気持ちを持っているか否かを五件法により調査した（図1）。その結果、あまり感謝していないやまったく感謝しないと答えた子どもはいなかった。調査した8名の内、感謝していると答えた子どもが5名、大変感謝しているが1名、どちらでもないが2名であった。どちらでもないと答えた兄弟も別のアンケート項目で食べ物への感謝の気持ちを挙げており、参加した子どもは食や食事にある程度の感謝の気持ちを有していると判断された。

Q 2 で食事の時に「いただきます」といいますかの質問に対し、8名全員がいただきますというと答えていた。また、Q 3 「いただきます」の意味についても、8名中5名の児童が回答しており、ごはんをたべる、たべものへの感謝、おいしい、

皆がつくっていることに感謝、食べ物のいのちをもらう感謝の気持ちや作った人への感謝の気持ちと答えていた。食べ物がもともとはいのちである認識でいのちをいただくという意味を挙げた子どもが1名いた。

Q4で食後に「ごちそうさま」といいますかの質問では、いただきますが8名全員が答えたのに対し、ごちそうさまと答えた児童は6名とやや少なかった。Q5の意味は、作ってくれる人への感謝が3名、ありがとうと1名が答えた。

食事の前後に「いただきます」と「ごちそうさま」をいう児童は家族と食卓を共にしていた。一方、いわない児童は個食の傾向があった。

[牛乳や乳牛について]

Q6牛乳は好きですかの質問では、

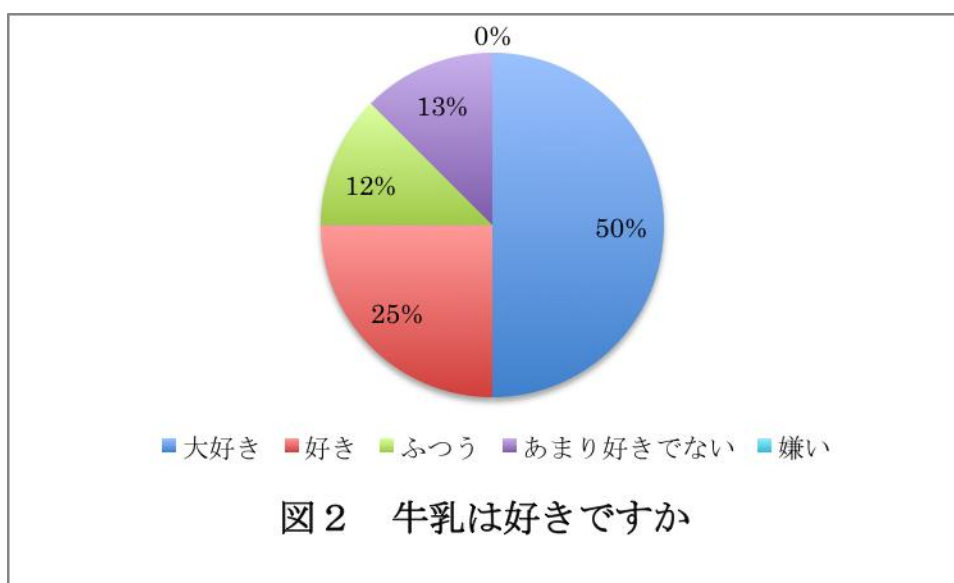


図2に示すように、多くの子ども達が牛乳を大好きまたは好きと答えた。一方、嫌いと答えた子どもはいなかった。

Q10お乳が出なくなった乳牛は、お肉になるという質問でははいと答えた子どもが3名、いいえと答えたのが4名、わからないが1名であった。お肉にならないと認識していることがわかった。

[食生活について]

Q201日の食事回数（おやつを含め）の質問で、全員が3回または4回以上と答えていた。1日におやつを含め3回（朝、昼、夕）以上食事をしていることがわかった。

Q21食事の時間の質問では、20～30分と答えた児童が5名と最も多く、次いで30～40分が2名、1時間以上と答えた児童が1名であった。

Q22誰と一緒に食事をするかの質問では、家族全員が4名、子どもだけが3名、母親と一緒に1名であった。

いただきますやごちそうさまを食事の際に必ずいうと答えた子ども達は全員が家族全員で食卓を囲んでいることが注目された。

Q23 好きな食べ物と嫌いな食べ物の質問では、好物は果物類、野菜類、ラーメン、ハンバーグなど多様な食品を挙げていた。しかし、嫌いな食べ物は統一性があった。すなわち、ゴーヤやピーマンなど苦味を感じる食べ物やナスやトマトのように味より歯ごたえに苦手要素があると判断した。

[感覚と味覚について]

Q24 食べる時に使う場所という質問（5選択枝）で、目が5名、鼻が0名、口が7名、手が4名、耳が0名であった。目で確かめて、箸などで持ち上げ、口で食べるという意識があり、目と手と口に○を付したと思われる。一方、鼻や耳と答えた児童は一人もいなかった。嗅覚や聴覚を使っているという意識が希薄であると思われた。

Q25 一番使わない場所では鼻が1名、耳が7名であった。Q24でも指摘したように、耳を使用している意識がほとんどないことがわかった。

Q26 聴いたり感じたりした味の質問では、子ども達はそれぞれ多くの味を挙げていた。9種の味のうち、8種を聴いたり感じたりしていた子どもが1名、7種が3名、6種1名、5種が2名であった。特に、辛味、甘味、塩味、苦味、うま味は全員が感じている味と答えていた。しかし、酸味は3名が聴いたり感じたりしたことの無い味という結果であった。五基本味の情報を提供していない状況であるが、五基本味のうち、甘味、塩味、苦味、うま味の認識度が高く、酸味が低いという結果になった。

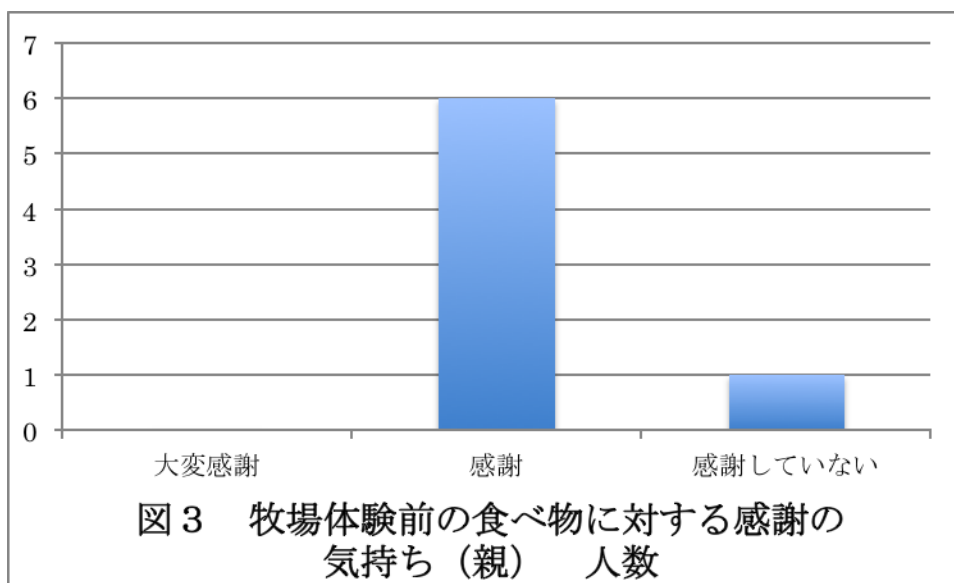
Q27 味を感じやすい方か否かの質問では、感じやすいと答えた子どもは4名、にぶいが1名であり、比較的味覚に自信があると思われた。

[給食について]

」 Q28 学校給食が好きですか？の質問に大好き4名、好きが4名で大好きと答えた理由はおいしい、食べやすいと答えていた。

② 保護者の調査結果と考察

[食べ物への感謝といただきますについて]



牧場体験する前に、食事や食べ物に対する感謝の気持ちについて、子ども同様親に対しても質問した(Q1)。その結果を図3に示した。調査した7名の内、感謝していると答えた親は6名、感謝していないが1名であった。

感謝している理由(Q2)は食べられること自体に感謝していること、食材に対する感謝、その結果として、食材を残さないことや腐らせないことに発展していた。

Q3「いただきます」をいいますかでは、いわないが1名で、他の6名はいうであった。いただきますの意味(Q4)についても、さまざまないのちをいただいているが5名で、2名が感謝の意味を挙げていた。いただきますを他の言葉(Q5)で置き換えた場合、有り難うと応えた親が多かった。

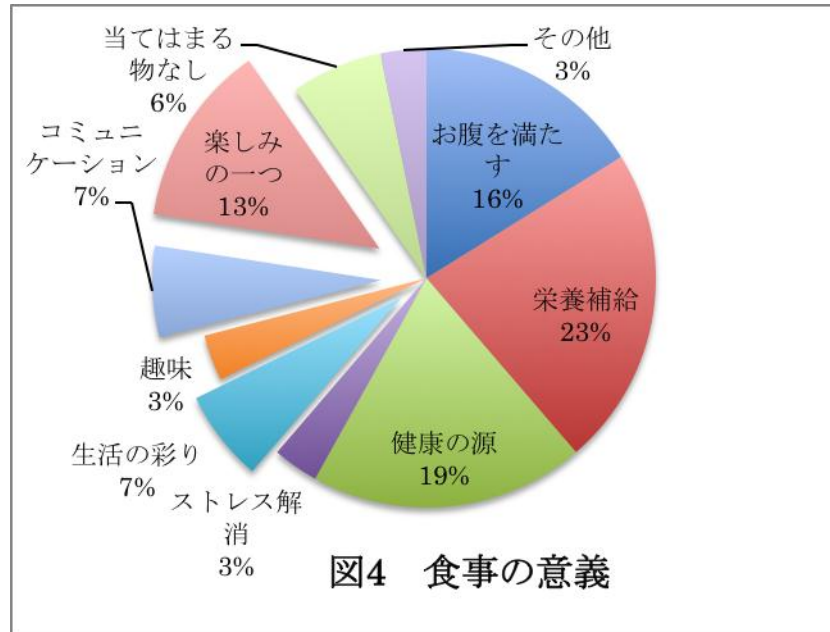
Q6食後に「ごちそうさま」といいますかの質問では、参加したすべての親7名がごちそうさまというと答えた。しかし、ごちそうさまの意味(Q7)についての質問では、自分の血や肉となりいのちを繋いでいる、食べさせてもらっている感謝、感謝、お腹いっぱいになっての感謝、自分の体になった、考えたことがないなど多様な意見がでた。いただきますに比べ、ごちそうさまの意味は不明確であると判断された。また、ごちそうさまを別の言葉(Q8)で置き換えると「ありがとう」の意見が多かった。

[牛乳について]

Q12お乳が出なくなった乳牛は、お肉になるという質問では、はいと答えた3名でいいえと答えた親は4名であった。子ども達と同様に乳が出なくなった乳牛

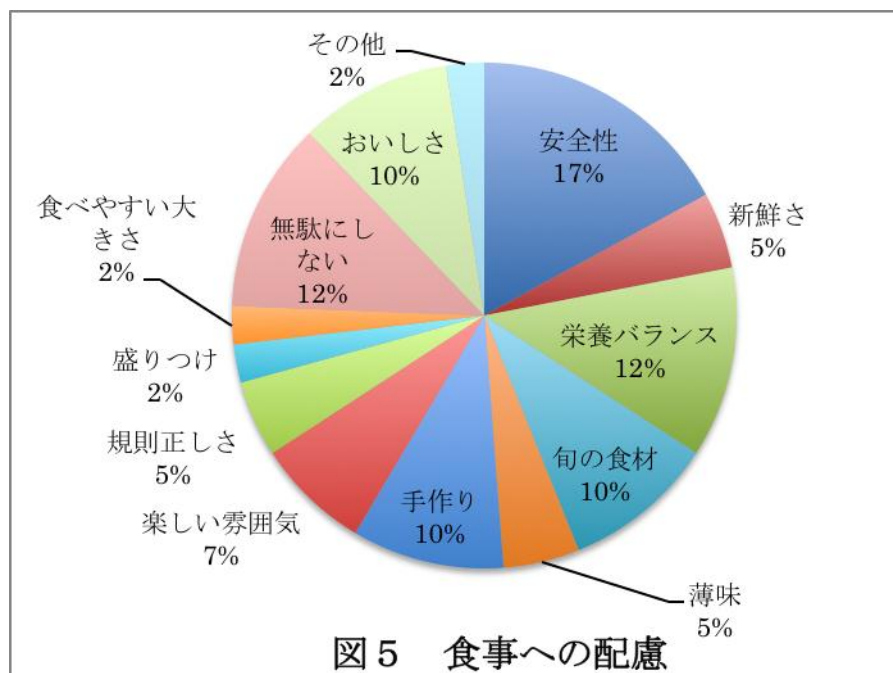
がどのようになるか理解していないことがわかった。

[食生活について]



Q20 食事の意味の質問では、エネルギーや栄養（7名）、健康の源（6名）、お腹を満たす（5名）、楽しみ（4名）生活の彩りやコミュニケーション（2名）であった。空腹を満たし、栄養と健康のためと食事を捉えている。一方、一日の楽しみや生活の彩り、コミュニケーションを挙げていた。食事を空腹や栄養補給、健康と捉えることはよい。しかし、目の前にある食べ物に興味を示し、おいしく楽しく食べることによって、家族などのコミュニケーションが活発になることも真実である。

Q21 食事配慮している事柄

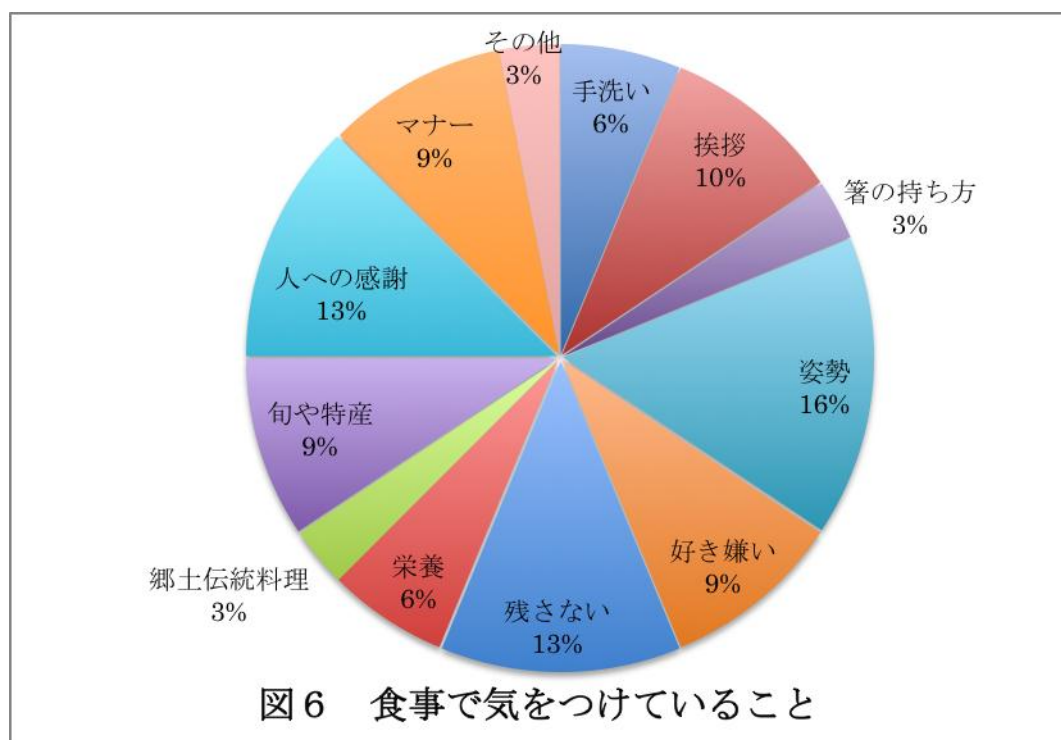


安全性が最も多く（7名）、栄養バランスと無駄にしない（5名）、次に旬の食材、手作り、おいしさが（4名）と続いた。その他、楽しい雰囲気（3名）、新鮮さや薄味、規則正しさが（2名）であった。食の前提として、安全性に配慮し、栄養面でも気にしていることがわかった。また、食べ残しなど食を無駄にしないことについても考慮していることがわかった。他方、旬、手作りやおいしさなど食材や調理面で配慮し、おいしい食事を手作りし、楽しい雰囲気の中で食卓を囲むことを願っていることもわかった。

食事の前の食に対する配慮という視点から、食材、料理や食材や料理の味に関する事項が多く、作り手の視点が大きいと判断された。

Q22 食事の時に気をつけていることは、姿勢が最も多く5名であった。姿勢とは食べる時の体勢を示しており、良い姿勢で食べることを重視している。次いで、残さないことと人への感謝が4名であった。料理を残さないで食することと食材を生産した人達や料理を作ってくれた人への感謝の念も大切であると感じている。次に多い挨拶（3名）から、いただきますやごちそうさまを心掛けていることがわかった。さらに、マナー（3名）が多く、姿勢、挨拶、感謝と同じ意識を気にしている。その他、好き嫌い、旬や特産が3名で味に関与している項目が続いた。

食事時に、気にすることは栄養や味よりも姿勢、挨拶、マナーなどの面に配慮していることがわかった。



Q23 食事の際の話題について質問した結果、家族間で1日に起きた出来事や嬉しかったことや学校の様子、その他、食材やメニュー、料理の味についてコミュニケ

ーションをはかっていることがわかった。

Q24 家庭に伝わる料理の有無について、5組の家族のうち、4組があると答え、1組がないと答えた。料理としては、煮物や雑煮と答えた家族が多く、味についても薄味やだしを使用する傾向があった。

Q25 味付けの好みはやや濃いのが4名、やや薄いのが3名であった。Q26 味覚の自信は自信がある2名、自信がない1名、どちらでもないが4名であった。その理由としては、食べることが好きであること、料理で試行錯誤して味に自信がついたなどがあった。どちらでもないは料理が不得手である、あまり考えたことがない、どんなものでも食べられるなど料理や食材に感心がないように思えた。

Q27 食事時間の質問では、全員が30分程度と答えた。しかし、一人での食事時間は15分程度になると答えた親がいた。家族で食べると食事時間も長いようである。

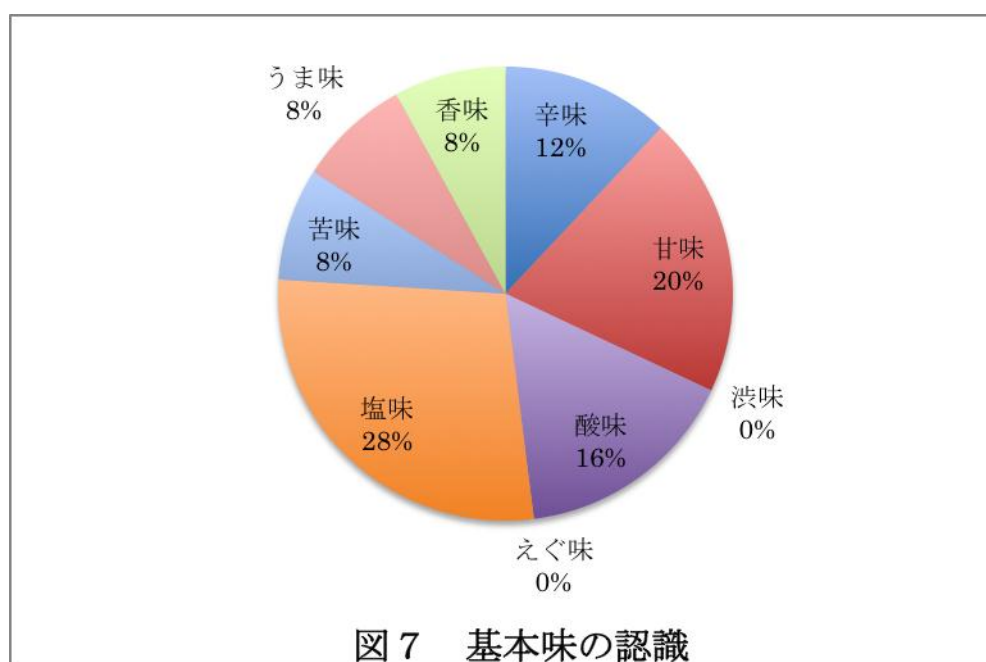
Q29 旬を気にして食べているかはいが4名でいいえが3名であった。旬を気にしない親も半数近くいた。

[感覚・味覚について]

Q30 食べるときに使う感覚として、子ども達と同様に質問した。視覚4名、嗅覚2名、味覚7名（全員）、触覚1名、聴覚0名であった。子どもでは嗅覚が0名であったが、親は嗅覚も意識しているようである。しかし、聴覚については子ども同様使っているという認識がなかった。

Q31 最も衰えて感覚？の質問では、嗅覚3名、触覚2名、聴覚2名という結果になった。嗅覚が衰えたと認識している親世代が多かった。

Q32 基本味の認識（図7）では、塩味は7名全員が基本味と考えていた。



次に多かったのは甘味5名、酸味4名と続いた。しかし、辛味を基本味と考えた親が3名おり、本来の基本味である苦味(2名)とうま味(2名)より認識度が高いと判断された。この事実は味覚に関する教育がほとんど行われていないことを意味する。

[給食について]

Q33 給食の経験はすべての親が小学校と中学校で経験していることがわかった。

Q34 給食の印象では、良い印象がある親が5名で良い印象がない親が3名であった。良い印象としては嫌いな物が少なかった、一緒に食べるとおいしい、楽しくおいしかったという理由を挙げていた。良い印象がない理由は食事が冷えていたやメニューが片寄っていたなどを挙げていた。

Q35 よい思い出としては、皆で食べたや珍しいメニューを多く挙げていた。悪い思い出は嫌いな物でも残すなといわれた、時間厳守や食事時間が短かったという思い出があった。

Q36 牛乳や乳製品を1日に1回から2回とっている結果であった。

親子それぞれの食や食事に対する感謝やいただきますの意味、牛乳などの既知知識、食事の実態調査、感覚や味覚の認識、給食に関するアンケートを牧場体験前に実施した結果である。これらの事前アンケート結果と以下に示す牧場体験活動の効果を検証するために本調査が実施されているが、次の項目では具体的な体験活動について述べる。

(2)体験活動

1日目



写真1



写真2

13時：オープニングとして、主催者の挨拶やスタッフ紹介があり、その後参加家族の自己紹介が始まった。(写真1)

13時30分：牧場体験前のアンケートを親子別の場所で行った。アンケート終了後、

心の色塗りを実施した。(写真2)

14時：沼ミルクファーム代表の磯沼正徳氏のファシリテーションで牧場体験活動が始まった。まず、牧場を皆で一週りした。以下具体的な内容を記す。

- ① 歩いて10分の上り坂を皆でのぼり、放牧場で子牛に挨拶した。牛種の異なる3種の子牛と初対面した。放牧されている牛は牧草を食べていた。また、この放牧地で自由に運動、食事、睡眠と1日中過ごすことを教わった。

放牧地はでこぼこで周辺には牛の糞が一杯あり、新しい糞と古い糞についての説明があった。親子ははじめは恐る恐る近づいて子牛に触れていたが、慣れてくるとまるで子犬と同じ扱いのように触れ合っていた。(写真3)

- ② 放牧地を下り、フリーバーン牛舎で母牛約100頭に挨拶した。3種(ホルスタイン、ジャージー、ブラウンスイス)の特徴を親子で観察するとともに、餌や寝床と搾乳場の位置等の説明を受けた。



写真3



写真4

- ③ 牛舎にしかれている敷藁、カカオやコーヒーの殻の置き場に移動し、居住地に隣接している牧場にとって、どのような問題があるかなどの問いかけがあった。また、皆でなぞの物体の匂いを嗅いで、この物体が何であるか？磯沼さんから問いかけられた。近隣の住民に匂いの迷惑をかけないよう長年の経験からその匂いを消す目的や乳牛にストレスを与えないものがカカオやコーヒーの殻であることを知らされ驚いた様子であった。

また、母牛は毎日搾乳の仕事があるため、搾乳以外の休息時間は気持ちよく休めるように、1トンのカカオの殻を敷き、ふかふかの寝床を作ることが説明された。(写真4)

- ④ 餌として与える数種牧草の置き場に移動し、これら牧草の匂いを嗅いで牧草には様々は匂いがあることを発見していた。また、牛のコンディションにあった食物繊維の多い牧草を食べさせるなどまるで家族同様の扱いをしていることについても感心していた。このような努力で牛乳の量を考えるのではなく、牛乳の質を考えて、おいしいミルクが出るように乳牛の体に配慮した飼い方をしていると

いう説明を受けた。

15時：放牧場の下にある平地で、テント張り、整地、簡易トイレの設置等、キャンプ準備を行った。真夏の暑さに負けないで、水筒で水を飲みながら親子で寝床を作っていた。(写真5)



写真5



写真6

16時：牧場周辺の散策、磯沼家の先祖代々の田んぼや畑を散策し、田んぼの稲の花やイナゴなどの昆虫や川にいるオイカワなどを観察していた。

17時：夕食（バーベキュー）の準備のため、机や椅子の設置、皿や茶碗、コップや箸を配布した。また、磯沼さんの畑でとれたトウモロコシやピーマン、ゴーヤ、ナス、キュウリ、タマネギ、カボチャ、インゲンなどの野菜を切り、親子とスタッフ一同で準備を進行した。最後に、バーベキューのメイン素材であるブラウンスイスの雄牛（子牛）の後足のお肉が披露された。(写真6)

19時：磯沼ミルクファームのミルクや肉や八王子の食材を使ったバーベキュー料理で夕食を味わった。

1 日目のファシリテーションの課題：

夏の暑い日でのファシリテーションということもあり、長い説明は聞き手の負担が大きいと考えられる。日陰をより多く作る工夫や座りながら授業する工夫が望まれる。

1 日目にどのような教育的活動があったかを列記した。

- ① 子牛の放牧地や3種牛との触れ合い体験、
- ② フリーバーン牛舎と敷物の体験型の感覚教育、
- ③ 餌としての数種牧草の感覚教育、
- ④ テントの設営体験、
- ⑤ 調理や調理器具などを使用した調理体験、

⑥ 生き物としての食材の意義（特に、牧場で実施される牛肉を食べる体験活動）が挙げられる。体験では説明するより、随所にファシリテーターは適切な問いかけを投げかけ、受講している親子に考えてもらう機会を提供する必要がある。ココアの匂いや牧草の匂いなど、答えをいう前に考えさせる問いかけがあつて適切であつ

た。しかし、説明する部分も多く、説明部分を再度、考慮したファシリテーションが望まれる。

また、「いただきます」の意味を考えてもらう機会が随所にあった。特に、⑥の牛肉を用いたバーベキューは絶好の学びの機会である。しかし、夕食ということもあり、ブラウンスイスの雄の子牛の運命を考えてもらう問いかけが十分になく、意識されないまま夕食に進行した点が惜しまれる。

2日目

5時30分：牧場周辺を早起きして散策した。

6時30分：牧場の朝の仕事を見学した。牛舎から搾乳場への移動など朝早くからいろいろな仕事が行われている実態を観察した。

7時：朝食の準備と朝食、スタッフと親子全員で朝食を準備した。メニューはパンとサラダと牛乳やヨーグルトであった。特に、パンにぬるバターは自分で手作りする体験を兼ねたプログラムである。磯沼さんのファシリテーションで手作りバターの指導が始まった。牛乳と生クリーム入りのガラス瓶を振ることなどの指導を受け、親子は各自約10分間一生懸命に振り続けた。その結果、黄色のバターが各自完成し、歓声があがっていた。その他、生野菜や牛乳、ソーセージや牛肉などをおかずで朝食が進行した。朝食終了後、皆で後片付けした。(写真7)



写真7



写真8

9時：モッツァレラチーズ作り準備、20kgの生乳を2つ暖めながら、まず、ヨーグルトを投入し乳酸発酵させた。

10時：生まれたばかりの子牛の紹介と2頭の生後1ヶ月程の子牛と放牧場まで散歩し、子牛と親密に触れ合った。磯沼さんの指導のもと、手綱の引き方や後ろ足で踏まれないように足の運びを習い、実際に牛を引きながら放牧地まで移動した。(写真8)

11時：搾乳体験とモッツァレラチーズ作り：子牛との散歩終了後、子ども一人一人が搾乳を体験した。それと同時にモッツァレラチーズ作りを行った。数回の工程

中、味見をしながら工程を確認した。熱々のチーズを手で球形に成形し完成させた。(写真9と10)



写真9



写真10

12時30分：出来立てのモッツアレラチーズをメインにパスタやサラダなどで昼食をとった。

14時30分：牧場体験後のアンケートと心の色塗り

15時：クロージングと終わりの挨拶

2日目のファシリテーションの課題

2日目の牧場体験の教育的活動を列記した。

- ① 子牛の紹介と授乳方法
- ② バターの手作り体験、牛乳とヨーグルトの飲み比べ
- ③ モッツアレラチーズ作り
- ④ 子牛との散歩
- ⑤ 搾乳体験
- ⑥ 調理体験

が挙げられる。特に、牧場ということもあり食材を扱う体験が多く、バター作りやチーズ作り、朝食や昼食時の調理等2日目は食に向き合う時間が多かった。また、①の子牛の授乳やお世話の仕方、③の子牛との散歩、⑤の搾乳の体験など牧場の日常の仕事はいのちの成長や繋がりを感じさせる素晴らしい体験活動である。

2日目の体験も牛や人の関係、子牛の授乳、牛乳を利用したバターやチーズ作りなど多くの活動があった。しかし、体験による楽しさやバターやチーズを上手に作る工夫はあったが、興味や感心を寄せる問いかけが少なかったと思われた。バターやチーズがどうして牛乳からできるのか。いろいろな疑問を引き出すファシリテーションが望まれる。

ファシリテーターの心に残った言葉として、チーズ作りは、母乳を飲んだ子牛が乳を胃の中で固めて消化する過程を再現している。チーズは牛さんから生まれた6000年も続いている食文化の叡智であるという。

(3)事後調査の結果と考察

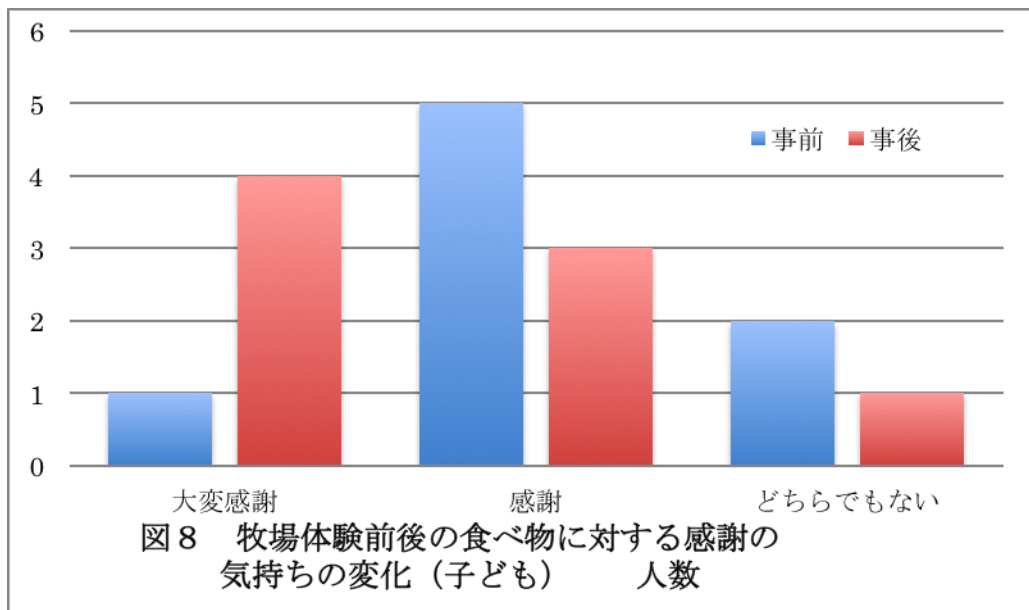
事前アンケートと牧場体験を踏まえ、体験後の事後アンケートを実施した。これらから、牧場体験やファシリテーションの重要性について述べる。

① 子どもの事前事後調査の結果と考察

[食べ物への感謝といただきますについて]

Q1 食べ物への感謝の気持ちの変化

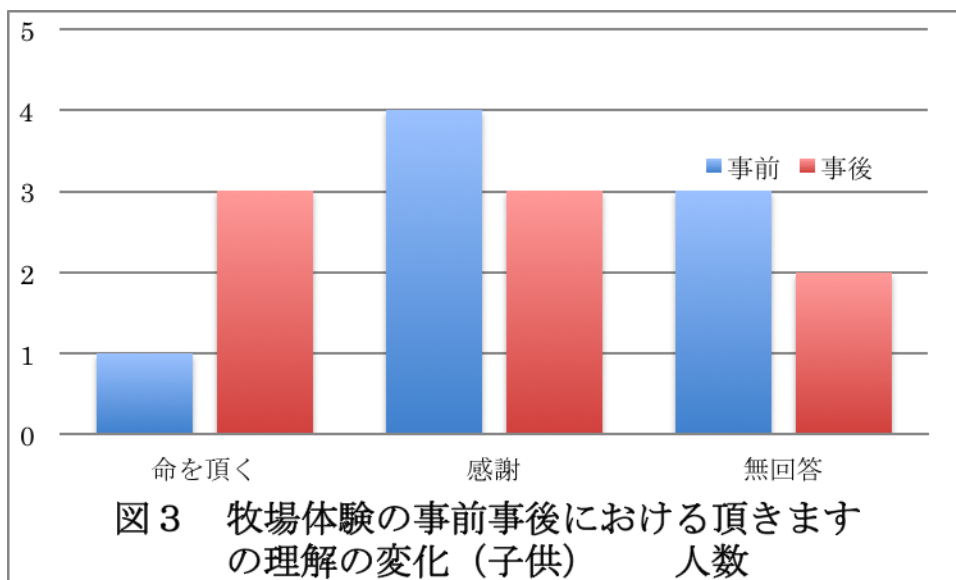
牧場体験の事前と事後における食べ物に対する感謝の気持ちの変化を調べた。



事前アンケートでは、子ども8名の内、1名が大変感謝している、5名が感謝している、2名がどちらでもないという結果であった。牧場体験後にも同じ質問を実施したところ、どちらでもないが1名、感激しているが2名減少した。その結果、大変感謝しているが1名から4名に増えた。子ども達は様々な牧場体験により、普段口にする食物に対して、感謝する気持ちが向上したものと判断された。

Q3 「いただきます」の理解の変化について

酪農体験の事前と事後における「いただきます」の意味やその理解についてアンケートを実施した。



事前の調査では、いのちをいただくところをたえた児童が1名、食べ物や作ってくれた人への感謝とこたえた児童が4名、無回答が3名であった。無回答は難しい質問で後回しにした結果、時間がなく記入できなかったと思われる。

事後調査では、いのちをいただくところをたえた児童が3名に増加し、感謝が3名、無回答が2名であった。酪農生活の実体験が「いただきます」の意味するところを自覚した結果と判断される。

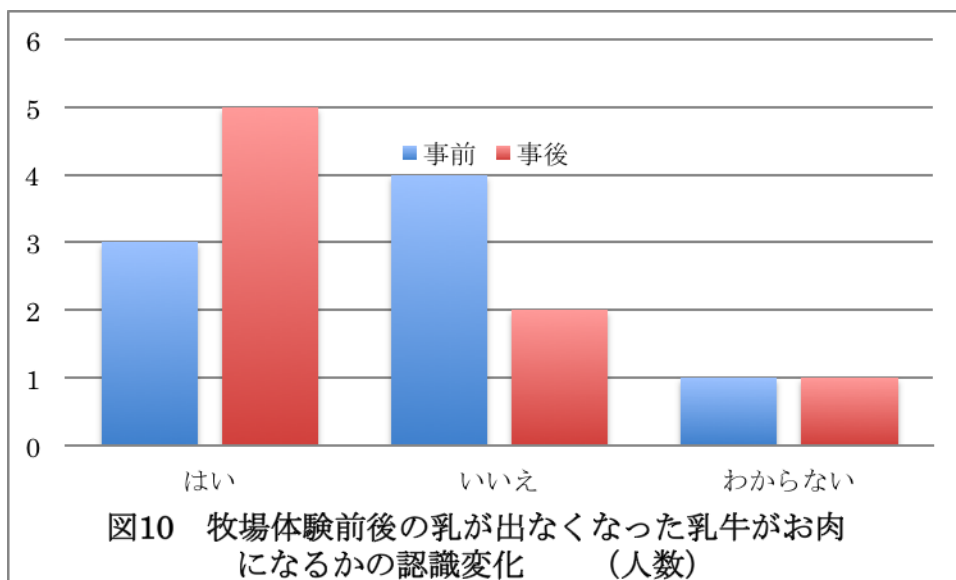
牧場体験により「いただきます」の理解が深まったと考えられるが、食をいのちとして捉える体験機会は数多くあるものの、それを意識させる場面に欠けていた。例えば、バーベキュー時の子牛の肉について、この肉はどこの牛の肉でしょうか？雄の牛はどのような運いのちでしょうかまたは役割があるのでしょうか？大切に育てていることと家畜としての役割を思考する時間が望まれる。

Q5 「ごちそうさま」の理解の変化について

食べ物への感謝とこたえた児童が4名、無回答が4名であった。牧場体験の事前と事後の変化は認められなかった。「ごちそうさま」は「いただきます」と比較して、牧場の日常体験による効果は薄いことが示唆された。しかし、「ごちそうさま」の意味を考えた経験がなく、どうして「ごちそうさま」というのだろうかという問題を児童に提示する機会になった。今後は牧場体験だけでなく、その意味についても実感を伴う体験の必要性を感じた。

[牛乳や乳牛について]

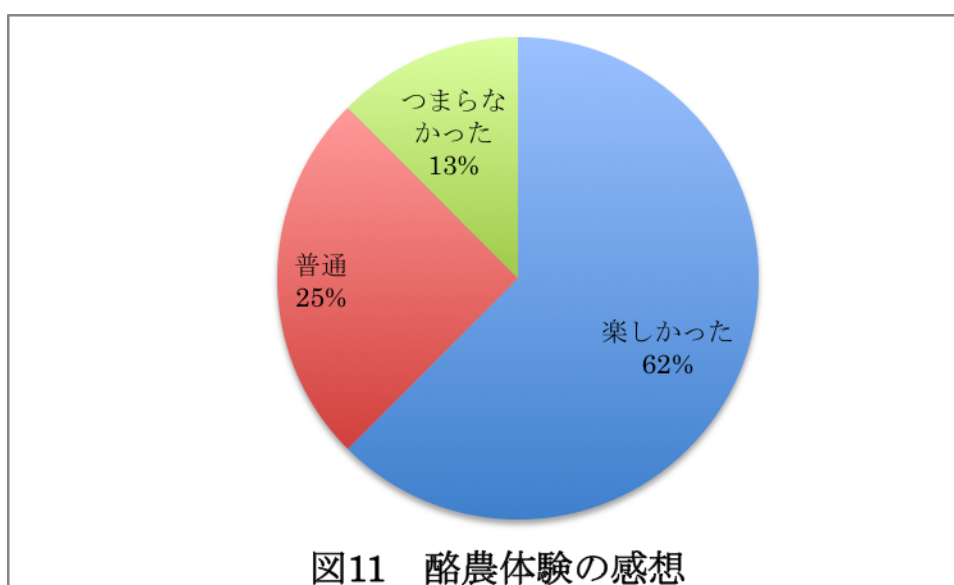
Q9 牧場体験前後にお乳が出なくなった乳牛は、お肉になることについての認識の変化について、アンケートを集計した。



その結果（図 10）、牧場体験を通じて、乳牛や雄牛が肉になる事実を認識した子どもが増えた。しかし、その事実を認識できなかった子どももみられた。家畜としての役割などいのちの問題を追求する機会としては牧場体験は有効と判断される。しかし、問いかけの仕方や集中できる授業スタイルやスケジュールなど、多くの課題があることがわかった。

[牧場体験について]

Q18 図 11 に牧場体験の感想を示した。



多くの児童が楽しかったという感想であった。しかし、普通やつまらなかったという児童もいた。なお、普通と答えた児童も一杯食べた事や牛の散歩が楽しかったという評価も得ており、アンケート結果と一致しない面も考慮する必要を認めた。

Q19 牧場体験で1番面白かった活動

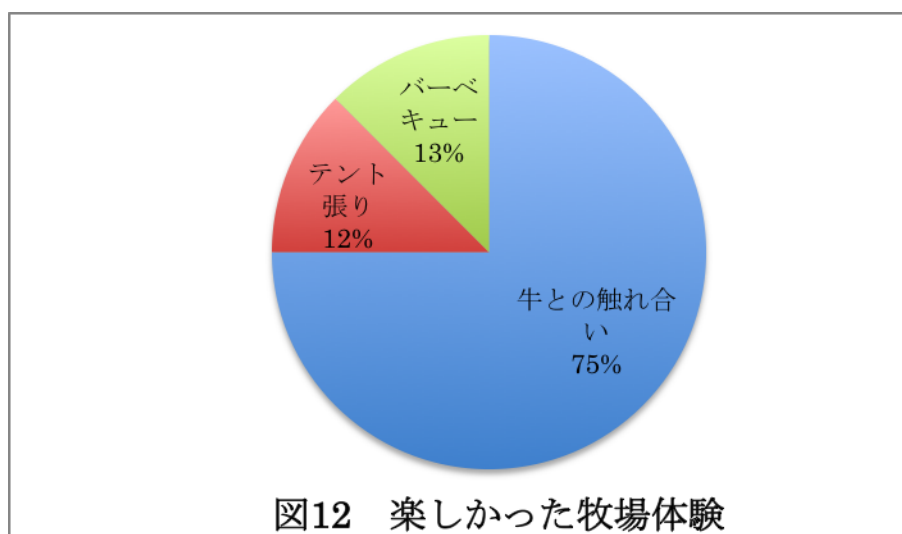
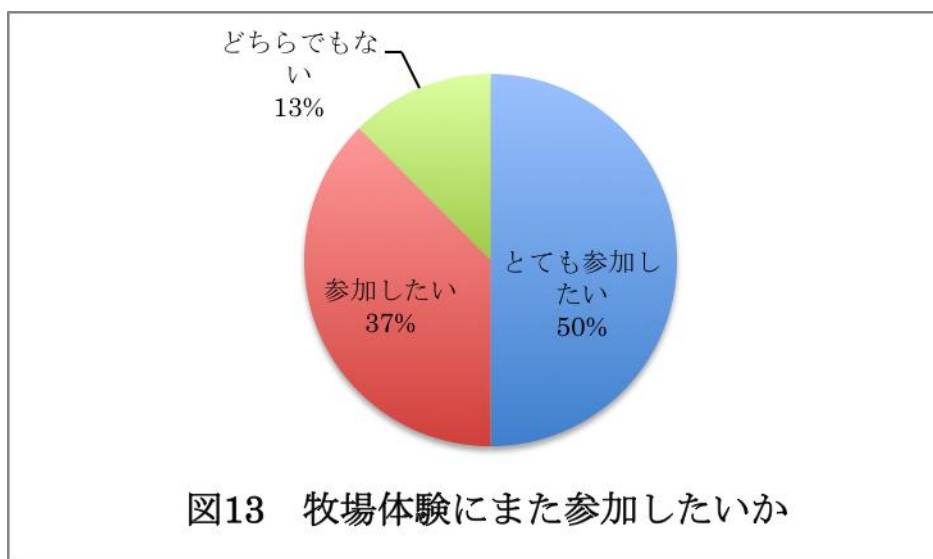


図12は楽しい活動について調査した結果である。多くの児童が牛との直接の触れ合いが楽しく、特に牛との散歩や搾乳体験を挙げていた。その他、テント張りやバーベキューを挙げた児童もいた。子ども達の多くは動物との直接的接触を楽しんでいることがわかった。また、テント張りやバーベキューなどは親子やグループなど共同で作業することに楽しさを感じている。それに比べ、チーズ作りやバター作りなどの活動を選んだ子どもは一人もいなかった。

肌身を感じる直接体験が楽しく心に残る活動であることがわかった反面、食や食事に対する意識を牧場体験から認識する活動やそのファシリテーションをより考慮する必要性を感じた。

Q21 牧場体験にまた参加したいかについて、アンケートを実施した。



その結果、とても参加したいが4名、参加したいが3名、どちらでもないが1名

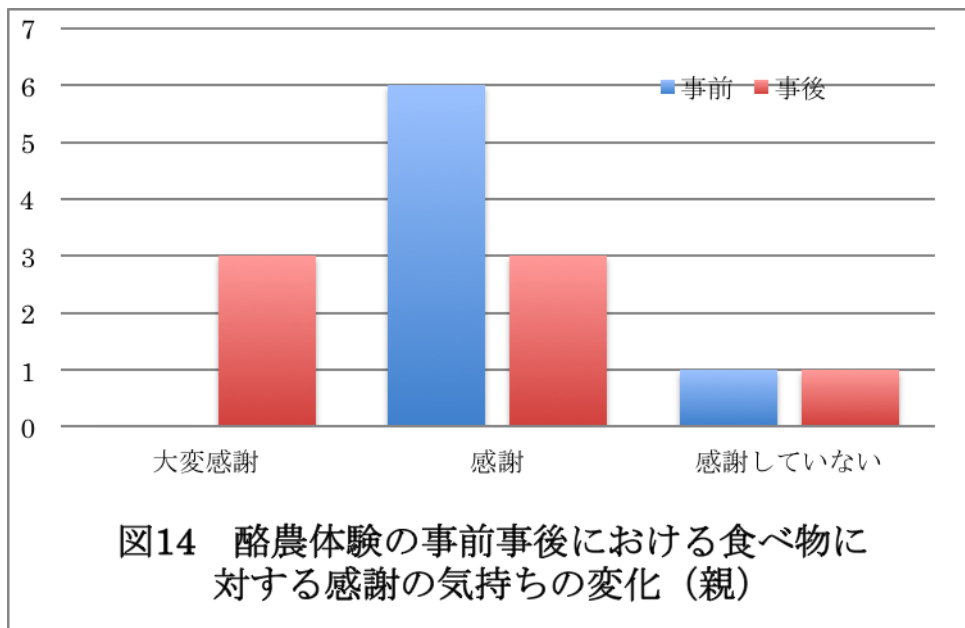
であった。ほとんどの子ども達が再度参加したい経験と位置づけていた。牧場体験やそこで実施される数々の活動が楽しく心に残る体験活動であることを意味している。体験が多く学びの場として、牧場を利用することは子ども達の学びの発展に寄与することが示唆された。

② 保護者の事前事後調査の結果と考察

[食べ物への感謝といただきますについて]

Q1 食事や食物に対して、感謝の気持ちをいつも持っていますか？

牧場体験の前後における食べ物に対する感謝の気持ちの変化を調べた。

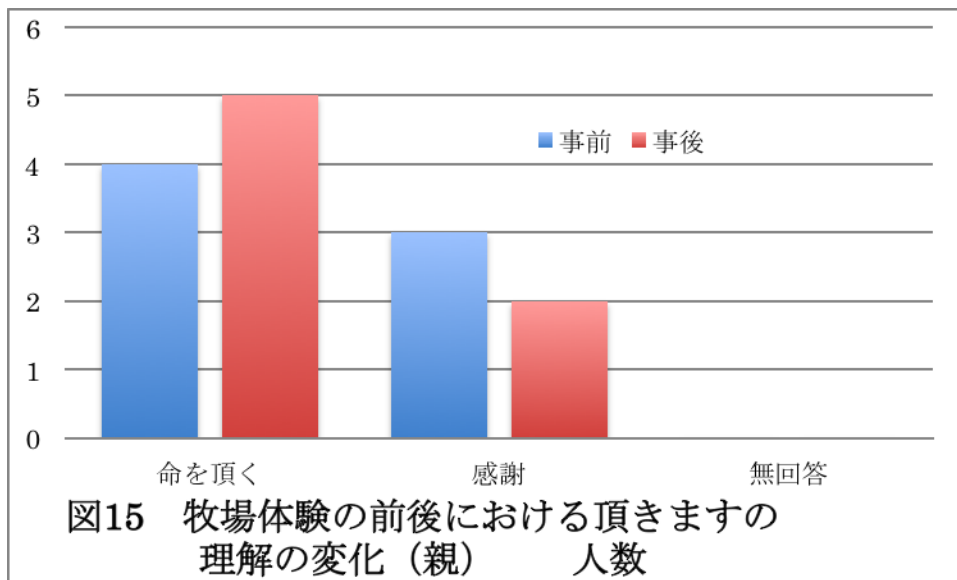


事前アンケートでは、親7名のうち、大変感謝しているが0名、感謝しているが6名、1名が感謝していないという結果であった。牧場体験後にも同じ質問を実施したところ、大変感謝しているが0名から3名に増え、牧場の実体験から食べ物に対する感謝の念が上昇したことが伺えた。

Q2ではどのように感謝しているかでは、体験前より他のいのちが自分のいのちになること、いのちをいただいているという気持ちを込めていただきます、いのちにありがとう、残さず食べる、食べられることに感謝、作ってくれる人や生き物を育てた人に感謝など広範な意見があった。

Q4 「いただきます」の意味について

体験の前後における「いただきます」の意味やその理解について、アンケートを実施した。



事前の調査では、いのちをいただくと答えた親が4名、食べ物や作ってくれた人への感謝と答えた親が3名、無回答はいなかった。

事後調査では、いのちをいただくと答えた親が5名に増加し、感謝が2名であった。児童に比べ、牧場体験の事前調査でもいのちをいただくと答えた親が多かった。また、牧場生活の実体験を通して「いただきます」の意味を再確認したようである。

[牛乳や乳牛について]

Q12 乳が出なくなった乳牛は、お肉になるという質問で、牧場体験の前後で変化はなかった。すなわち、はいと答えた3名、いいえと答えた親が4名で変化がなかった。この事実は、今回の体験活動から実感できなかった部分と判断できる。

家畜としての運命や家畜の役割を活動を通して実感するプログラムや問いかけが望まれる。

[牧場体験について]

Q20 牧場体験で学んだことを列記すると、

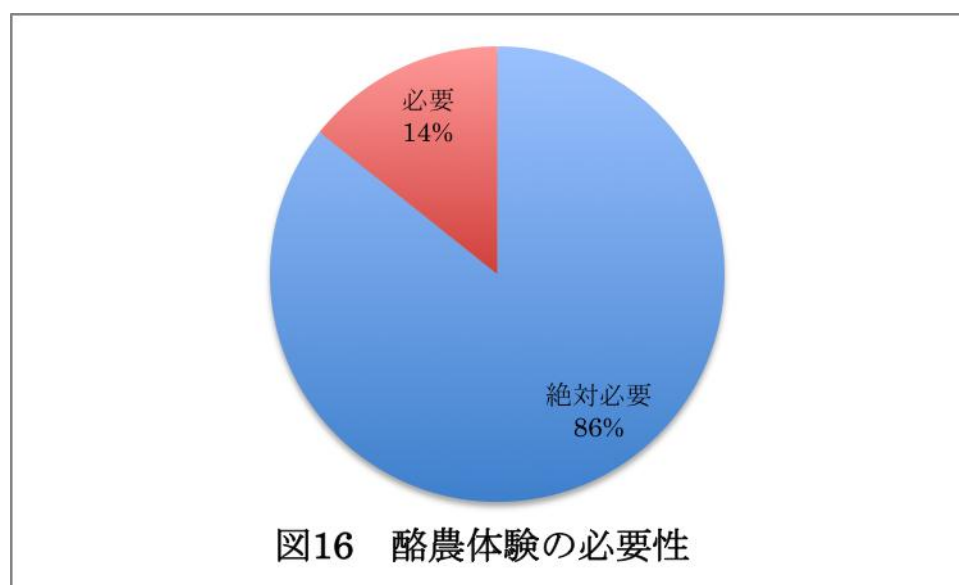
家畜の事を知るには生活を共にすることが大切、眺めるだけでは分からない。牛乳という製品を味わっただけでは分からない。計り知れない努力や工夫がたくさんあることがわかった。牛のことも知らない事がたくさんあった。何気なく食べたり飲んだりしているものも人間だけのためでなく、牛達や生き物のお陰で美味しく食べることができるかと改めて考えさせられた。牛の糞は草の栄養になる。自然は循環していることが肌で感じる事が出来た。磯沼さんの牛に対する対応が子供にも繋がる事である。牛は人のために乳を出してくれていて、人とともに生きている。牛の心が少し分かったと思います。牛に囲まれて牛肉を食べるのは厳しい。いのちの大切さ等を考えてしまった。食べ物を大切にすること。いのちを頂いているという事を

実感できた。

親にとっても貴重な体験であった。学んだ事については、調査対象は親のみであったが、子ども達同様多くの気づきがあった。

Q21 牧場体験は楽しかったですかの質問では、参加したすべての親が楽しかったと答えていた。これは児童より親の方が楽しい経験と感じていることを示している。また、何が楽しかったかの質問に対し、具体的な項目を挙げるより、2日間の普段出来ない体験そのものが有意義であるや親子で一緒に過ごせたからと答えた親が多かった。

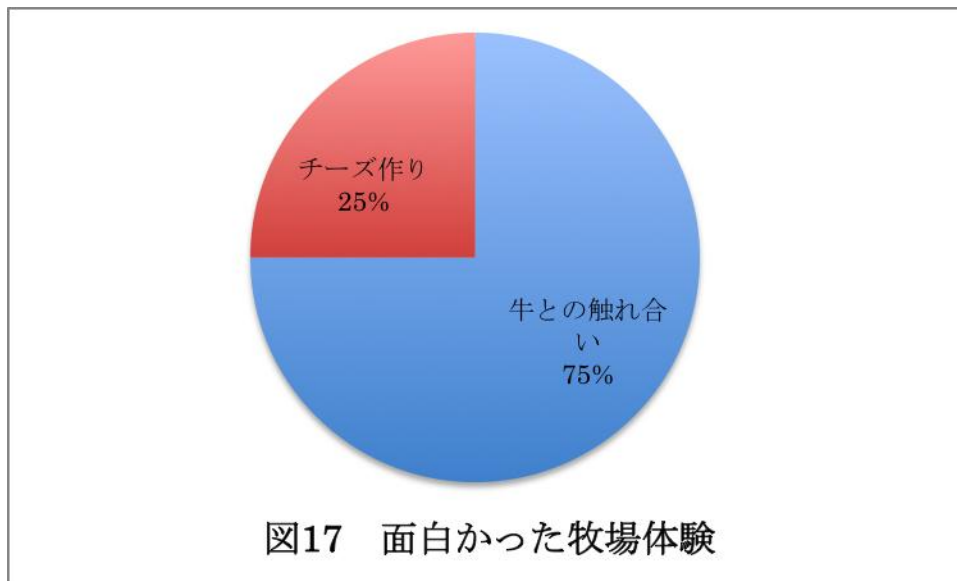
Q22 牧場体験の必要性では



すべての親が酪農体験の必要性を感じていた。特に、絶対必要であると答えた親がほとんどであった。その理由として、酪農の経験をすることで、そのプロセスを知ることができたことは、これまで当たり前前に店に陳列されている食材をみる目が異なり、有り難みを感じることができる。元はいのちであることを理屈でなく実感することができた。また、ある親は教科書や話だけでなく、実体験で楽しみながら牛達との関係等を学べるのはとても大切である。生き物を飼って仕事とする事の大変さなど学ぶ事が多かった。牛乳から乳製品になるまでの工程を見たり食べたり(味わったり)することで理解が深まった。毎日飲む牛乳のために働いている人がいること。牛に触れ合えずこしでも牛乳や酪農のことを理解することは大切である。酪農を身近に感じる事は遠くから見ているのと違って尊敬に値する場合が多い。自分が口にするいのちがどう育てられているか知る事は大切な意味があると思うという理由を述べていた。

Q23 面白かった牧場体験 (図 17) は子供と同様、牛との触れ合いが多く、次いでチーズ作りを挙げていた。チーズ作りでは、子牛の胃の中で起こっていることを再

現しているという説明に親の方が感心していた。



Q24 磯沼さんの印象に残った話を列記するとともに親の感想を（ ）に示した。

- ① 牛が心地よい＝良いお乳がでる＝おいしい製品となる。（この方程式はごまかしがきかないということがわかった。）
- ② 牛と散歩する目的は牛と仲良くなること。牛は甘えさせ過ぎるのはよくない、人間が主導権を握りつつ、牛と快適な関係を作ることが大切である。
- ③ 雄の子牛は短期間しか牧場にいられない。食肉として別の場所に行くこと。そして名前も付けない現実がある。（おいしい楽しいだけでなく、肉を食べることがどういうことなのか、親子で話し合うテーマを頂いた。）
- ④ チーズ作りは子牛の胃袋の様子を再現している。（言われてみればそうだなあと思ったが、そこまで考えが至らなかった事と磯沼さんの考えの柔軟さ、物事には同じような現象があるという事に「はっ」としました。）
- ⑤ 牛は人間に奉仕してくれているという話。（当たり前前に牛乳を飲み、牛肉を食べていたが、牛の人間に対する信頼感の上に成り立っていると感じた。）
- ⑥ 牛肉を食べている事の“牛がみてますよ”（ドキッとしました。）
- ⑦ 牛に優しい酪農、ライフサイクルの長い酪農。（いのちを大事にし、結果的に品質の良い製品も生産されている。）

③総括

生産者の苦勞を知る事は食を考える上で欠かせない。楽しむ体験だけでなく、本当の事を知る体験はその場だけでなく、ずっと心に残る。このことをこれからも食卓の話題にしたり、他の家族に伝えたりしていけたらと思う。

子どもだけでなく、親としても「生き物を食べる」ことを考えるいい体験会でした。子

ども達もこのような実体験で学べる機会が一杯あるといいと思う。今後も企画してほしい。

とても疲れた。ここ何十年もこんなに汗をかいた事はなかった。家でエアコンを使っているのにだるくて体調が良くなかったり、「何やっているのだろう」と思ったりの毎日でした。磯沼さんやスタッフやファームの従業員の方々の働く姿を見て、これが本当の姿なんじゃないかと思った。汗をかく事、体を動かす事に意味があると楽しい！

遠出する事なく、こんなに身近に様々な体験ができたことは親子にとってよい機会になった。今後も食べ物に対する感謝を大切に家族に伝えていきたいと思った。

その他、いろいろな体験や新鮮で美味しい食事への感謝やお客様になってしまって申し訳けないと同時にもっと手伝えたら良かったという感想があった。

暑い中、酪農の実体験を通じて、いただきますの意味を十分に理解した家族もいたが、必ずしも理解していない家族もいたと感じた。特に、子供たちへの言葉掛けについては考慮する必要がある。暑い事もあり集中力に欠けることもあるが、酪農家やスタッフは折角の気づきを促すケース（例えば、雄の子牛は短い期間しか牧場にはいない。）その理由を親子に問いかけるなどもう一段の工夫が必要である。その後に、肉として別の場所に行く事や雄の子牛には名まえも付けないなどを説明するとより一層の気づきに繋がると感じた。

酪農が示す「いただきます」への問いかけは、より深い理解へと通じるものであることを実感した。

[謝 辞]

本調査を実施するにあたり、多大なるご協力をいただいた5組の親子、また、素晴らしいファシリテーションをご提供いただいた磯沼ミルクファーム代表の磯沼正徳氏に深く感謝申し上げます。また、このような調査の機会をご提供頂いた中央酪農会議および酪農教育ファーム推進委員会の皆様に感謝申し上げます。

資料1 事前アンケート（子ども用）

※わからないところはおとなの人に聞いてください。

（8月16日 子供用）

◆お名前：（ ） ◆ねんれい（ ） さい

Q1. 食事や食物に対して、感謝の気持ちをいつももっていますか？

1. 大変感謝している
2. 感謝している
3. どちらでもない
4. あまり感謝していない
5. まったく感謝していない

Q2. あなたの家族は食事の前に「いただきます」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. 「いただきます」の代わりにお祈りをする

Q3. 「いただきます」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q4. あなたやあなたの家族は食後に「ごちそうさま」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. ときどき
4. 「ごちそうさま」の代わりにお祈りをする

Q5. 「ごちそうさま」には、どのような意味があると思いますか？

【乳牛についてお聞きします】

Q6. 牛乳は好きですか？

1. 大好きです
2. 好きです
3. ふつう
4. あまり好きでない
5. 嫌い

Q7. 乳牛はオスでもメスでもお乳を出す。

1. はい
2. いいえ

Q8. 乳牛はいつでもお乳を出す。

1. はい
2. いいえ

Q9. 乳牛は生まれて1年でお乳を出すようになる。

1. はい
2. いいえ

Q10. お乳が出なくなった乳牛は、お肉になる。

1. はい
2. いいえ

Q11. 家畜として飼われている乳牛の寿命は、だいたい10年くらいだ。

1. はい 2. いいえ

Q12. 乳をだす動物をほ乳類という。

1. はい 2. いいえ

Q13. 冬の牛乳と夏の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q14. 北の地域（北海道）と南の地域（沖縄）の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q15. 生まれたばかりの赤ちゃん牛が飲む牛乳とある程度育った牛の子どもが飲む牛乳は成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q16. 人の赤ちゃんが飲む乳と牛の赤ちゃんが飲む乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q17. 人の赤ちゃんのための乳（人乳）と牛の赤ちゃんのための乳（牛乳）で最も異なる特徴は何だと思えますか？味や成分の違いなどいろいろな視点があります。自分の感覚でご回答をお願い致します。

Q18. 牛乳や乳製品を1日に何回食べたり飲んだりしていますか。

もっとも近いものに○をつけて下さい。

- ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回 ⑥ 5回以上

Q19. どのような乳製品を食べているか。当てはまるものを○で囲んで下さい。

- ①牛乳 ②練乳 ③ヨーグルト ④チーズ ⑤バター ⑥アイスクリーム
⑦生クリーム ⑧無脂肪牛乳 ⑨脱脂粉乳 ⑩乳酸菌飲料

【あなたの食生活について伺います。】

Q20. あなたは一日何回、食事をしますか？（おやつを含めます）

- ① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回以上

Q21. あなたは食事をするとき、どれぐらい時間をかけますか？

- ① 10分未満 ② 20分～30分 ③ 30分～40分 ④ 1時間以上

Q22. あなたは食事をするとき、だれと一緒に食べることが多いですか？

- ① 家族みんな ② お父さんかお母さん ③ 子供だけ ④ ひとりで食べる

Q23. あなたの好きな食物ときらいな食物を、
理由と併せて教えてください。

好きな食物：

理由：

好きな食物：

理由：

きれいな食物：

理由：

きれいな食物：

理由：

Q24. 食べる時、使っているところはどこだと思いますか？

当てはまるとおもう番号にすべてに○を付けてください。

- ① 視覚（目） ② 嗅覚（鼻） ③ 味覚（口や舌） ④ 触覚（手や皮膚や歯） ⑤ 聴覚（耳）



Q25. 食べる時、一番使わないところはどこだと思いますか？

当てはまるとおもう番号に○を付けてください。

- ① 視覚（目） ② 嗅覚（鼻） ③ 味覚（口や舌） ④ 触覚（手や皮膚や歯） ⑤ 聴覚（耳）



Q26. 味についてのしつもんです。

下にある味の中から聞いたり感じたりしたことがある味の種類に○を付けてください。

- ① 辛味 (からみ) ② 甘味 (あまみ) ③ 渋味 (しぶみ)
④ 酸味 (さんみ) ⑤ えぐ味 (えぐみ) ⑥ 塩味 (しおあじ)
⑦ 苦味 (にがみ) ⑧ うま味 (うまみ) ⑨ 醍醐味 (だいごみ)

Q27. あなたは食べ物を食べる時、味を感じやすい方だと思いますか？

そのわけは何ですか

- ① 感じやすい方だと思う わけ【 】
② にぶい方だと思う わけ【 】

Q28. 給食は好きですか

当てはまるものに○を付けてください。また、そのわけを書いて下さい

- ① だいすき ② すき ③ ふつう ④ あまりすきでない ⑤ きらい
わけ

Q29. あなたが食べている給食の感想を自由に書いてください。

(好きなごはん・好きな料理やきれいな料理など)

ごきょうりょく、ありがとうございました。

■お名前

■年齢

■生まれた場所（例：東京都中央区）

■生まれた場所で暮らした年数

■家族構成 1. 親子（2世代） 2. 祖父母親子（3世代）

Q1. 食事や食品に対して、感謝の気持ちをいつも持っていますか？

2. 大変感謝している 2. 感謝している 3. 感謝していない
4. まったく感謝していない 5. どちらでもない。

Q2. Q1で1と2と答えた方はどのように感謝していますか？

Q3. あなたの家族は食事の前に「いただきます」を言いますか？

1. はい 2. いいえ 3. ときどき
4. 「いただきます」の代わりにお祈りをする

Q4. 「いただきます」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q5. 「いただきます」を他の言葉で言い換えるとしたら、どんな言葉を使いますか？

Q6. あなたやあなたの家族は食後に「ごちそうさま」を言いますか？

1. はい 2. いいえ 3. ときどき
4. 「ごちそうさま」の代わりにお祈りをする

Q7. 「ごちそうさま」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q8. 「ごちそうさま」を他の言葉で言い換えるとしたら、どのような言葉が浮かびますか？

【乳牛についてお聞きします】

Q9. 乳牛はオスでもメスでもお乳を出す。

1. はい 2. いいえ

Q10. 乳牛はいつでもお乳を出す。

1. はい 2. いいえ

Q11. 乳牛は生まれて1年でお乳を出すようになる。

1. はい 2. いいえ

Q12. お乳が出なくなった乳牛は、お肉になる。

1. はい 2. いいえ

Q13. 家畜として飼われている乳牛の寿命は、だいたい10年くらいだ。

1. はい 2. いいえ

Q14. 乳を分泌する動物をほ乳類という。

1. はい 2. いいえ

Q15. 冬の牛乳と夏の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q16. 北の地域（北海道）と南の地域（沖縄）の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q17. 生まれたばかりの子牛と、ある程度育った牛の子どもが飲むミルクは成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q18. 人の赤ちゃんが飲む乳と牛の赤ちゃんが飲む乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q19. 人の赤ちゃんのための乳（人乳）と牛の赤ちゃんのための乳（牛乳）で最も異なる特徴は何だと思えますか？味や成分の違いなどいろいろな視点があります。自分の感覚でご回答をお願い致します。

【食生活についてお聞きします】

Q20.あなたの生活において、食事はどのような意味を持っていますか。当てはまるものを全てお答えください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. お腹を満たすこと | 2. エネルギーや栄養の補給 |
| 3. 家族の健康の源 | 4. ストレス解消 |
| 5. 生活の彩り | 6. 趣味 |
| 7. コミュニケーション | 8. 一日の楽しみのひとつ |
| 9. 当てはまるものはない | |
| 10. その他 () | |

Q21.あなたはご家庭の食事について、どのようなことに気を配っていますか。当てはまるもの全てお答えください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 安全性 | 2. 新鮮さ |
| 3. 栄養バランス | 4. 品目数 |
| 5. 旬の食材を取り入れる | 6. 薄味にする |
| 7. 手作り | 8. 楽しい雰囲気作り |
| 9. 食事のタイミングの規則正しさ | 10. ボリューム |
| 11. 盛り付け | 12. 食べやすい大きさにする |
| 13. においや香り | 14. 食材を無駄にしない |
| 15. おいしさ | 16. 当てはまるものはない |
| 17. その他 () | |

Q22.あなたはご家庭で食に関することについて何か気をつけていますか。

当てはまるもの全てお答えください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 食べる前の手洗い | 2. 食べるときの挨拶 |
| 3. 食器の並べ方 | 4. はしの持ち方 |
| 5. 食べるときの姿勢 | 6. 好き嫌いをなく食べる |
| 7. 残さずに食べる | 8. 食品の栄養 |
| 9. 郷土料理・伝統料理 | 10. 日本の旬の食材や地方の特産品 |
| 11. 食材や食事を作ってくれる人への感謝 | |
| 12. 食事のマナー | 13. 当てはまるものはない |
| 14. その他 () | |

Q23.あなたは食事のとき、家族とどんな話をしますか？

Q24.昔から伝わっている家ならではの調理、味などがありますか？

当てはまるものに○を付け、ある方はその料理名・味をお答えください。

ある ・ ない

料理名・味【 】

Q25.あなたの好みの味付けであてはまるものに○をつけてください。

- ① 濃い味 ②どちらかという濃味 ③どちらでもない
④どちらかという薄味 ⑤薄味

Q26.あなたは自分の味覚に自信がありますか？当てはまるものに○をして、その理由もお答えください。

- ① 自信がある ②どちらかといえば自信がある ③どちらでもない
④どちらかといえば自信が無い ⑤自信がない

理由

Q27.普段の食事ではどれくらいの時間をかけていますか？

(最も近いものを選択してください)

- ① 15分未満 ②15分～30分 ③30分～40分 ④40分～50分 ⑤60分以上
⑥ (分)

Q28.食生活に関するこだわりがあれば教えてください

(普段食事をする際、どのような事に気を付けていますか?)

Q29.あなたは食材の「旬」を気にして食べていますか？当てはまる方に○をしてください。

は い ・ い い え

Q30.食事をする際に、重要な感覚は何だと思えますか？

当てはまる番号にいくつでも○を付けてください。

- ①視覚 ②嗅覚 ③味覚 ④触覚 ⑤聴覚

Q31.以下の五感の中で最も「衰えている」と感じる感覚はどの感覚とと思いますか？

当てはまるもの1つに○を付けてください。

- ①視覚 ②嗅覚 ③味覚 ④触覚 ⑤聴覚

Q32.「味覚」についてお伺いします。

下にある味の中から「基本味」だと思える味に○を付けてください。

- ①辛味 ②甘味 ③渋味 ④酸味 ⑤えぐ味 ⑥無味 ⑦塩味
⑧苦味

Q33.あなたは給食を食べた事がありますか？

当てはまるもの**全て**に○を付けてください。

- ①幼稚園（保育園）時代に食べていた。 ②小学校時代に食べていた。
④中学時代に食べていた。 ④給食は食べた事が無い

Q34.あなたは給食に関してどのような印象がありますか？

最も近いと感じるものに○を付け、その理由も教えてください。

- ①非常に良い印象がある ②まあまあ良い印象がある
③あまり良い印象はない ④全く良い印象がない

理由【

】

Q35.給食に関して良い思い出、悪い思い出などあれば教えてください。

良い思い出【

】

悪い思い出【

】

Q36.牛乳や乳製品を1日に何回食べたり飲んだりしますか？

最も近いものに○をつけて下さい。

- ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回 ⑥ 5回以上

Q 37.Q36 で1回以上牛乳や乳製品を食べる方に質問です。どのような乳製品を食べているか。当てはまるものを○で囲んで下さい。

- ①牛乳 ②練乳 ③ヨーグルト ④チーズ ⑤バター ⑥アイスクリーム
⑦生クリーム ⑧無脂肪牛乳 ⑨脱脂粉乳 ⑩乳酸菌飲料

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

資料3

事後アンケート（子供用）

※わからないところはおとなの人に聞いてください。

（8月17日 子供用）

◆お名前：（ ） ◆ねんれい（ さい）

Q1. 食事や食物に対して、感謝の気持ちをいつももっていますか？

1. 大変感謝している
2. 感謝している
3. どちらでもない
4. あまり感謝していない
5. まったく感謝していない

Q2. あなたの家族は食事の前に「いただきます」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. 「いただきます」の代わりにお祈りをする

Q3. 「いただきます」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q4. あなたやあなたの家族は食後に「ごちそうさま」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. ときどき
4. 「ごちそうさま」の代わりにお祈りをする

Q5. 「ごちそうさま」には、どのような意味があると思いますか？

【乳牛についてお聞きします】

Q6. 乳牛はオスでもメスでもお乳を出す。

1. はい
2. いいえ

Q7. 乳牛はいつでもお乳を出す。

1. はい
2. いいえ

Q8. 乳牛は生まれて1年でお乳を出すようになる。

1. はい
2. いいえ

Q9. お乳が出なくなった乳牛は、お肉になる。

1. はい
2. いいえ

Q10. 家畜として飼われている乳牛の寿命は、だいたい10年くらいだ。

1. はい 2. いいえ

Q11. 乳をだす動物をほ乳類という。

1. はい 2. いいえ

Q12. 冬の牛乳と夏の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q13. 北の地域（北海道）と南の地域（沖縄）の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q14. 生まれたばかりの赤ちゃん牛が飲む牛乳とある程度育った牛の子どもが飲む牛乳は成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q15. 人の赤ちゃんが飲む乳と牛の赤ちゃんが飲む乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q17. 人の赤ちゃんのための乳（人乳）と牛の赤ちゃんのための乳（牛乳）で最も異なるところはどこでしょうか？

【今回のらくのうたいけんについて質問します。】

Q18. 今日のたいけんは楽しかったですか。

番号をえらんで、そのわけをおしえてください。

- ① 楽しかった ② ふつう ③ つまらなくなかった ④ わからない
わけ：

Q19. 今日のたいけんの中で一番おもしろかったのはどれですか？

- ①牧場めぐり（親牛と子牛と仲良くなる） ②テントはりなど ③バーベキュー
④夜の牧場散歩 ⑤チーズ作り ⑥その他（ ）

おもしろかったわけを書いて下さい

（ ）

Q20. 今回のようなたいけんに、また、さんかしたいと思いますか？

- ① とてもさんかしたい ② まあまあさんかしたい ③さんかしたくない
④どちらでもない

Q21. 磯沼さんの話で1番心に残ったのは何ですか？

そのわけもおしえてください。

Q22. 今日のらくのうたいけんの感想を自由にご書いてください。

ごきょうりよく、ありがとうございました。

■お名前

■年齢

■生まれた場所（例：東京都中央区）

■生まれた場所で暮らした年数

■家族構成 1. 親子（2世代） 2. 祖父母親子（3世代）

Q1. 食事や食品に対して、感謝の気持ちをいつも持っていますか？

1. 大変感謝している
2. 感謝している
3. 感謝していない
4. まったく感謝していない
5. どちらでもない。

Q2. Q1で1と2と答えた方はどのように感謝していますか？

Q3. あなたの家族は食事の前に「いただきます」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. 「いただきます」の代わりにお祈りをする

Q4. 「いただきます」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q5. 「いただきます」を他の言葉で言い換えるとしたら、どんな言葉を使いますか？

Q6. あなたやあなたの家族は食後に「ごちそうさま」を言いますか？

1. はい
2. いいえ
3. ときどき
4. 「ごちそうさま」の代わりにお祈りをする

Q7. 「ごちそうさま」には、どのような意味が込められていると思いますか？

Q8. 「ごちそうさま」を他の言葉で言い換えるとしたら、どのような言葉が浮かびますか？

【乳牛についてお聞きします】

Q9. 乳牛はオスでもメスでもお乳を出す。

1. はい 2. いいえ

Q10. 乳牛はいつでもお乳を出す。

1. はい 2. いいえ

Q11. 乳牛は生まれて1年でお乳を出すようになる。

1. はい 2. いいえ

Q12. お乳が出なくなった乳牛は、お肉になる。

1. はい 2. いいえ

Q13. 家畜として飼われている乳牛の寿命は、だいたい10年くらいだ。

1. はい 2. いいえ

Q14. 乳を分泌する動物をほ乳類という。

1. はい 2. いいえ

Q15. 冬の牛乳と夏の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q16. 北の地域（北海道）と南の地域（沖縄）の牛乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q17. 生まれたばかりの子牛と、ある程度育った牛の子どもが飲む牛乳は成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q18. 人の赤ちゃんが飲む乳と牛の赤ちゃんが飲む乳では成分が異なる。

1. はい 2. いいえ

Q19. 人の赤ちゃんのための乳（人乳）と牛の赤ちゃんのための乳（牛乳）で最も異なる特徴は何だと思えますか？味や成分の違いなどいろいろな視点があります。自分の感覚でご回答をお願い致します。

【牧場体験についてお聞きします】

Q20. 今回の体験を通して、学んだことは何ですか

Q21. 今回の酪農体験は楽しかったですか

番号を選んで、その理由をお答え下さい。

- ①楽しかった ②ふつう ③つまらなかった ④わからない

理由：

Q22. 今回の酪農体験の様な企画は必要だと思いますか。

当てはまるものを○で囲んで下さい。また、その理由をお書き下さい。

- ①絶対必要である ②必要である ③あまり必要でない ④必要でない

理由：

Q23. 今回の体験の中で一番面白かったのはどれですか？

- ①牧場めぐり（親牛と子牛と仲良くなる） ②テントはりなど ③バーベキュー
④夜の牧場散歩 ⑤チーズ作り ⑥その他（ ）

理由：

Q24. 磯沼さんの話で、一番印象に残った話は何ですか？理由も合わせてお答え下さい。

Q25. 今回の酪農体験について、率直なご感想を御書き下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました